



取扱説明書

エンジンセット動噴

GS204E-H

GS304E-H



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に、本取扱説明書とエンジンの取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要な時にすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。
- 製品出荷時は、エンジンと動力噴霧機にオイルが入っておりません。給油してからご使用ください。
- 本製品は、製造後に運転テストを行ってから出荷しています。そのため製品中に水が残っている場合がありますが、異常ではありません。



株式会社丸山製作所

はじめに

- 本製品は健康な 16 歳以上の方が、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水及び牧舎、鶏舎、農機具、壁面などの洗浄を行う事を目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。上記に示した以外での作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令（廃棄物処理法、消防法、農薬取締法）を遵守してください。

⚠️ 安全に作業するために

■ 使用目的

本製品は健康な 16 歳以上の方が、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水及び牧舎、鶏舎、農機具、壁面などの洗浄を行う事を目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

- ⚠️ **危険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。
- ⚠️ **警告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。
- ⚠️ **注意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。

■ その他の表示について

お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ご使用前に、取扱説明書をよく読んで理解し、使用すること。		ガソリンは引火性が高いので、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。
	排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。		火傷防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラなどの高温部に触らないこと。
	排気ガスは高温のため排気ガス出口の 1 m 以内には物がないこと。		排気ガスは高温のため排気ガス出口の前に立たないこと。

本製品は健康な 16 歳以上の方が、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水及び牧舎、鶏舎、農機具、壁面などの洗浄を行う事を目的とした製品です。取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

■ 本体に関する注意事項

 危 険	
	<p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 強酸性の薬品、強アルカリ性の薬品、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどを噴霧しないでください。■ 引火性の高い薬剤は使用しないでください。
	<p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 燃料の給油時や本製品を点検、整備するときは、本製品の近くで喫煙など火を使わないでください。■ 作業中に燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。直ちにエンジンを停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。
	<ul style="list-style-type: none">■ 本製品は防水構造ではありません。絶対に水で濡らさないでください。 守らないと、感電や事故に至ります。また、本製品が故障するおそれもあります。

 警 告	
	<p>使用目的以外の使用禁止</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品は、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水及び牧舎、鶏舎、農機具、壁面などの洗浄を行う事を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。 目的以外に使用すると、安全性を損なうおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。
	<p>改造禁止</p> <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品の改造は行わないでください。■ 本製品は装置に組み込まないでください。
	<p>部品取り禁止</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品から組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。 他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。
	<p>使用者に関する注意事項</p> <ul style="list-style-type: none">■ 体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。 正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。■ 16 歳未満の人、妊娠している人は作業しないでください。 正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。■ 生理中や産後 1 年を経過していない女性、負傷中などの人は作業しないでください。 薬剤による影響を受け、薬害に至るおそれがあります■ 体内でペースメーカーを使用している方は、本製品を使用しないでください。 ペースメーカーが誤作動するおそれがあります。

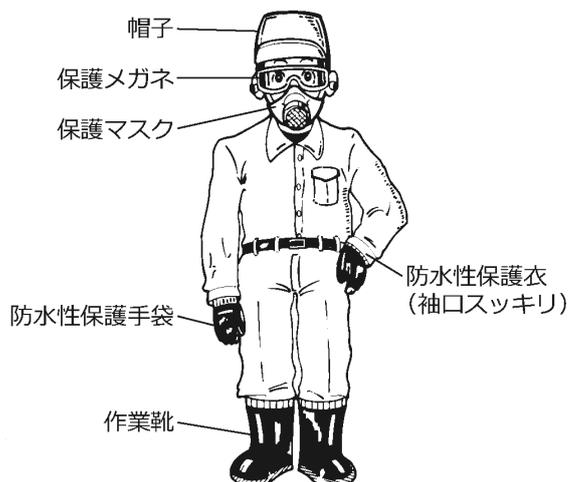
警告

使用環境に関する注意事項

- 降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。
- 足元が滑りやすい場所、急傾斜地では作業しないでください。転倒してけがに至るおそれがあります。
- 本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

作業着、保護具について

正しい服装の一例



- 身体を露出しないように、防水性保護衣、帽子、耳栓、保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋、作業靴の保護具を必ず装着してください。保護具が不適切な場合、薬剤が身体に付着し薬害をおこしたり、高圧水や飛散物でけがに至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。そのまま放置すると、失明や重傷に至ることがあります。
- 本製品は子供の手の届かないところに保管してください。おもちゃと間違え大人の真似をして触ると、事故やけがに至るおそれがあります。

注意

始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は15ページの「3. 始業点検(作業前点検)」を参照してください。

■ 動力噴霧機に関する注意事項

注意

動力噴霧機の取り扱い

- 動力噴霧機から吐き出される水は高圧のため、人や物に向けないでください。高圧水がかかるとけがに至るおそれがあります。
- タンクに水が無い状態で、30秒以上の運転はしないでください。本製品が故障に至るおそれがあります。

警告ラベルの取り扱い

⚠ 注意



下記の項目を守ってください。

本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。
※ 新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

※ 本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

本製品のご使用前に **1 ページの「■ シンボルマークについて」**を参照し、その意味を理解した上で、下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。

以下の図は GS204E-H について記載しています。機種によっては説明図が一部異なることがあります。

① 警告ラベル (部品番号 : 543075)



② 警告ラベル



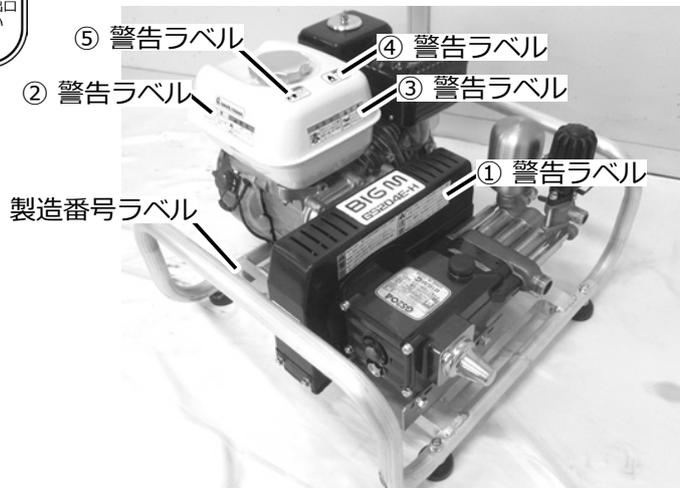
③ 警告ラベル



④ 警告ラベル (部品番号 : 835321)



⑤ 警告ラベル (部品番号 : 835322)



目次

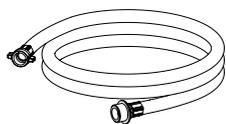
▲安全に作業するために ……………	1
警告ラベルの取り扱い ……………	4
1. 梱包品と各部のなまえ ……………	6
(1) 梱包品の確認……………	6
(2) 各部の名前……………	7
(3) 各部の働き……………	7
2. 運転前の準備 ……………	9
(1) 作業者の服装と保護具の装着……………	10
(2) 作業現場の整備……………	10
(3) 作業計画……………	10
(4) 移動、設置……………	10
(5) エンジンの準備……………	11
(6) ガソリンの廃棄……………	12
(7) 動力噴霧機の準備……………	13
(8) ノズルの接続……………	14
3. 始業点検(作業前点検) ……………	15
4. 運転の仕方 ……………	16
(1) 始動の前に……………	16
(2) 給水……………	16
(3) 始動……………	17
(4) 停止……………	19
(5) 緊急停止……………	19
(6) エンジンの始動フロー……………	20
5. 作業の準備 ……………	21
(1) 噴霧確認……………	21
(2) 薬剤の準備……………	23
6. 散布作業 ……………	25
(1) 散布作業……………	25
(2) 散布作業後……………	27
7. 点検・整備 ……………	29
(1) 定期点検……………	29
(2) 整備……………	31
8. 長期保管 ……………	33
9. 故障と対策 ……………	34
10. 転売・譲渡・廃棄 ……………	35
11. 主要諸元 ……………	36

1. 梱包品と各部のなまえ

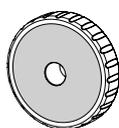
(1) 梱包品の確認

開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。

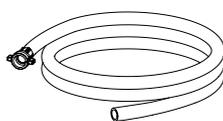
()内は部品番号です。



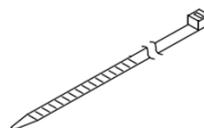
吸水ホース /1 本



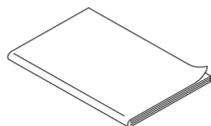
吸水ストレーナ /1 個



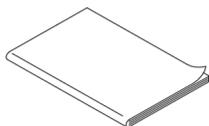
余水ホース /1 本



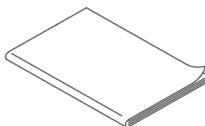
バンド /1 本



取扱説明書 /1 冊
(本製品)



取扱説明書 /1 冊
(エンジン)



保証書 /1 冊

■ 付属品リスト

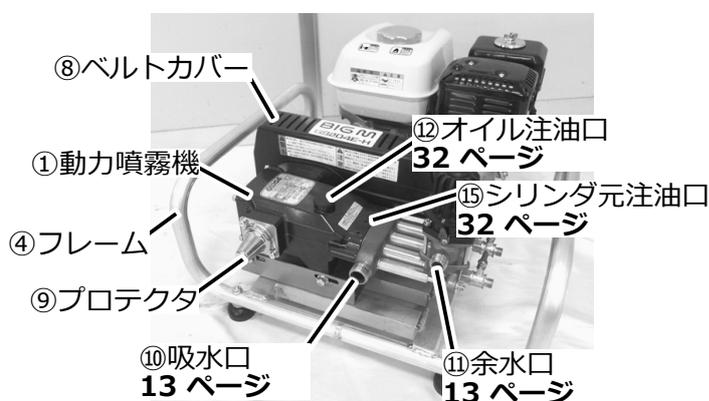
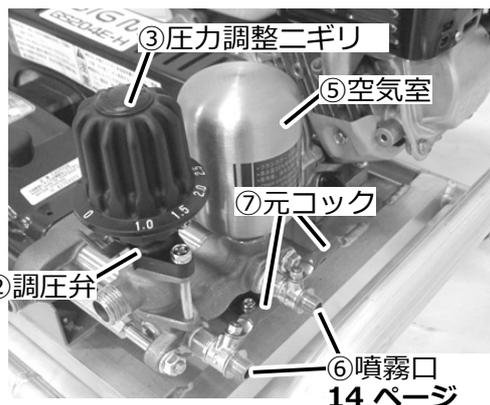
部品番号	名称	備考	数量
811356	吸水ホース	Φ 19mm × 3m	1
122017	吸水ストレーナ		1
811357	余水ホース	Φ 13mm × 3m	1
107107	バンド		1
835401	取扱説明書	本製品	1
-	取扱説明書	エンジン	1
-	保証書		1

(2) 各部の名前

各部の詳細については「(3) 各部の働き」及び以下記載のページ数を参照してください。

※GS204E-Hについて記載しています。機種によっては説明図が一部異なることがあります。

⑩エンジン
11 ページ



(3) 各部の働き

① 動力噴霧機

吸水ホースから水を吸い込み、②調圧弁で加圧して噴霧ホース、ノズルへ送ります。ノズルから吐き出されない水は、余水ホースからタンクへ戻されます。

② 調圧弁 ③ 圧力調整二ギリ

②調圧弁は、圧力の調整をします。圧力調整は③圧力調整二ギリを回して行います。二ギリの数値は、圧力(MPa)の目安です。

④ フレーム

移動用のフレームです。

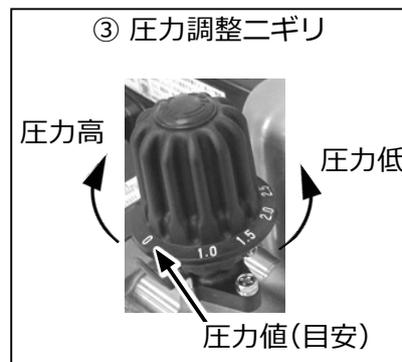
⑤ 空気室

中の空気が圧縮され、加圧された水の振動を減らします。

⑥ 噴霧口

加圧された水の取出口です。噴霧ホースを接続します。

※噴霧ホースは製品に付属されていません。



⚠ 注意

■ 噴霧ホースは 36 ページの「11. 主要諸元」を確認の上、吐出圧力や吐出量などに対応した規格の純正品をお買い求めください。

間違った規格のホースを使用すると、事故やけがに至るおそれがあります。また、本製品の故障の原因となります。

⑦ 元コック

元コックを開閉操作することで、噴霧口からの噴霧、停止の切り替えを行います。

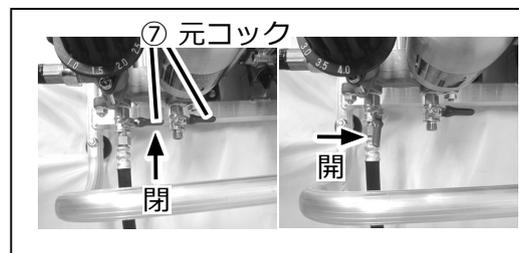
使用しない元コックは閉じて使用してください。

⑧ ベルトカバー

回転部(プーリ、ベルト)をおおうカバーです。

⑨ プロテクタ

かくはん機(オプション)を取り付ける時は外してください。



警告



■ **かくはん機を使用しない場合は、必ずプロテクタを取り付けて使用してください。**
守らないと回転する軸に巻き込まれ、事故やけがに至るおそれがあります。

⑩ 吸水口

ここから薬液を吸い込みます。標準付属品の吸水ホースを接続します。

⑪ 余水口

ノズルから吐き出されない薬液を薬剤タンクへ戻す口です。標準付属品の余水ホースを接続します。

⑫ オイル注油口

動力噴霧機の潤滑用オイルを入れる口です。

⑬ オイルゲージ

潤滑用オイルの量を確認する所です。

⑭ オイルドレン

動力噴霧機の潤滑用オイルをここから抜きます。

⑮ シリンダ元注油口

動力噴霧機内の摺動部にオイルを注油する口です。

⑯ エンジン

動力噴霧機を回す動力源です。

※詳細については、付属のエンジン取扱説明書を参照ください。

2. 運転前の準備

危険

下記の項目を必ず守ってください。
守らないと火災や事故に至ります。

- ガソリンは火気により爆発の危険があります。火気厳禁で取り扱ってください。
- 燃料の補給はエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- 燃料の給油は、屋内や換気の悪いところではしないでください。
- 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭きとってください。
- 燃料を給油する場合は、燃料タンク内のストレーナレベルゲージを超えるまで入れないでください。
- 配線およびマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥やホコリの堆積などがある場合は、取り除いてください。
- 燃料は金属製の燃料缶に入れて保管、運搬してください。

警告



- 密閉されたところや通気の悪い場所では運転しないでください。
一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

注意



- 無用な人は作業の現場に近づけないでください。
作業の現場に近づくと、事故やけがに至るおそれがあります。



- 取扱説明書およびエンジンの取扱説明書をよく読んで、本製品の操作に慣れて正しい安全作業を行ってください。
正しい安全作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。
- 本製品に使用する部品は必ず、30 ページの「■ 消耗部品リスト」及び 36 ページの「11. 主要諸元」を参照頂き、本製品の規格に対応した純正部品をお買い求めください。
間違った規格の部品を使用すると、事故やけがに至るおそれがあります。また、本製品の故障の原因となります。規格の選定でご不明な点がございましたら、ご購入の販売店にお問い合わせください。

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具（タオルなど）を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先（医療機関・消防署など）がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- 燃料を取り扱う前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具（乾燥砂、砂ををかけるためのスコップなど）を準備してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。
- 作業の準備を始める前に、ノズル、噴霧ホース、タンク（ポリタンク）、油脂類などは、お客様が準備をお願いします。その他のご希望、ご要望がありましたら、36 ページの「11. 主要諸元」を参照し、製品仕様に対応した規格の純正部品をご購入の販売店にてご相談、お買い求めください。
- 機体を長時間、野外に放置しないでください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は3ページの「作業着、保護具について」を参照してください。

警告



- 体を露出しないように、防水性保護衣や保護具などを必ず装着してください。
体が露出していると薬剤が体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

(2) 作業現場の整備

作業現場にある障害物は事前に取り除いてください。また、屋内で作業をする際は、換気ができるようにしてください。

警告



- 本製品を屋内で使用するときは、換気に注意してください。
換気が不十分だと一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

注意



- 作業現場に障害物がないことを、作業前に十分に確かめてください。
障害物の近くで作業をすると、転倒してけがに至るおそれがあります。

お願い

- 必要に応じて対象物の周りをシートで覆い、建物等への飛沫を防止してください。

(3) 作業計画

散布作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順（薬剤の準備・散布作業・散布順路・後片付けなど）、緊急時の対応などを決めた作業計画を立ててください。

(4) 移動、設置

本製品を運搬、設置するときは、下記の注意事項を守ってください。

危険



- 定置配管に接続し、無人運転や連続運転を行わないでください。
守らないと火災や事故に至ります。
- 火気やガソリンなどの危険物、燃えやすいものの近くに設置しないでください。
守らないと火災に至ります。

警告



- 本製品の設置場所および作業場所には、関係者以外立入禁止にしてください。
子供や動物を近づけると事故の原因となります。

注意

	<ul style="list-style-type: none">■ 自動車などによる運搬時は機械が転倒しないような処置をしてください。 走行時に転落、落下し、事故に至るおそれがあります。
	<p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと事故やけが、故障に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品は、対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦な場所に設置してください。■ 衝撃・落下物がなく、本製品が転落することのない安全な場所に設置してください。■ 本製品の移動はフレームをしっかりと持って行ってください。■ 本製品を吊り上げる場合は、4本吊りで吊り上げてください。また、使用するロープの点検、ロープの引っ掛かり具合や重量バランスが問題ない事を確認してください。
	<p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと事故やけが、故障に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品は単独運転のみで使用し、他の製品や装置に接続、組み込んで運転しないでください。■ 本製品を必要以上に傾けないでください。■ 本製品は重量物です。移動時に無理に持ち上げないでください。■ 設置時に衝撃を与えないでください。
	<ul style="list-style-type: none">■ 機械を設置した周りには物を置かないでください。 操作の邪魔になり、非常時の対応が素早くできないばかりでなく、誤操作につながるなど、事故やけがに至るおそれがあります。

(5) エンジンの準備

① 使用前にエンジンにエンジンオイルを入れてください。

※詳しくは同梱のエンジン取扱説明書をよく読んでください。

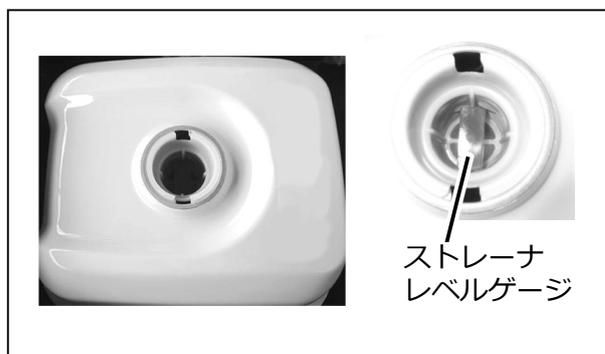
注意

	<ul style="list-style-type: none">■ オイルの給油・確認は機械を水平にして行ってください。 守らないと必要量のオイルが給油できず、焼き付きの原因となり、本製品の故障につながります。■ 給油口フタは確実に取付けてください。 フタの取り付けが緩いとオイルが漏れ、本製品の故障につながります。
---	---

お知らせ

- 製品出荷時、エンジンオイルは入っておりません。

- ② 図のように燃料キャップを外し、燃料タンクに自動車用レギュラーガソリン(無鉛)を入れてください。
- ※ ストレーナレベルゲージ(赤色リング)まで、燃料を入れてください。
- ※ 給油量については 31 ページを参照してください。



⚠ 警告



こぼれたガソリンの放置または漏れなどがないように、下記の項目を必ず守ってください。火災につながり、死亡または重傷に至るおそれがあります。

- ガソリンはこぼさないように注意して入れてください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- 燃料タンクのキャップはしっかり締めて、給油口からガソリンが漏れないことを確認してください。燃料漏れがある場合はキャップを増し締めしてください。もし燃料漏れが止まらない場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。
- 給油時にエンジンや燃料タンク、燃料ホース、ホース類の接続部からの燃料漏れやしみがないか確認してください。もし燃料漏れやしみがある場合は、使用を中止し直ちにご購入の販売店へご相談ください。

⚠ 注意



- 購入から 1 カ月以上経過したガソリンは、本製品に使用しないでください。変質したガソリンを使用すると、エンジンの故障に至るおそれがあります。

お知らせ

■ ガソリンの購入について

令和 2 年 2 月 1 日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(令和元年総務省令第 67 号)により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認および販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合した金属製のガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

お願い

- 燃料は変質しやすいので、保管量は最小限にしてください。

(6) ガソリンの廃棄

ガソリンは危険物であり、廃棄物処理法の特別管理廃棄物に相当します。みだりに廃棄すると法令による処罰の対象となります。廃棄する場合はお住まいの自治体の廃棄物担当部署に、ガソリンであることを明示して相談し、指示に従ってください。または、危険物を取り扱う専門の産業廃棄物処理業者に処分を依頼してください。

(7) 動力噴霧機の準備

① 動力噴霧機にオイルを入れてください。

(詳細は 32 ページの「2. オイル給油方法」を参照してください)

⚠ 注意



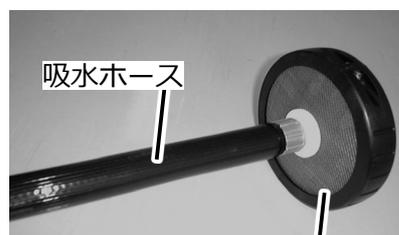
- **オイルの給油・確認は機械を水平に行ってください。**
守らないと必要量のオイルが給油できず、焼き付きの原因となり、本製品の故障につながります。
- **給油口フタは確実に取付けてください。**
フタの取り付けが緩いとオイルが漏れ、本製品の故障につながります。

お知らせ

- 製品出荷時、動力噴霧機にオイルは入っておりません。

② 吸水ホースの先端に、吸水ストレーナを取り付けてください。

※ 手で回らなくなるまで締めてください。



吸水ストレーナ

お願い

- 使用する前に吸水ストレーナを清掃してください。

⚠ 警告



- **各ホースの接続は確実に行ってください。**
ホースの接続が不完全な場合は、運転中にホースが外れたり、水漏れによって事故やけがに至るおそれがあります。

⚠ 注意



- **ホースやノズルの接続を行う際に金具を工具で締付ける場合は、強く締め過ぎないでください。**
パッキンやネジ部が破損する恐れがあります。

③ 動力噴霧機に標準付属品の吸水ホース、余水ホースを接続して下さい。その際、ホース先端のパッキンに異常がないことを確認してください。(手で回らなくなるまで締めてください。)



吸水ホース 余水ホース

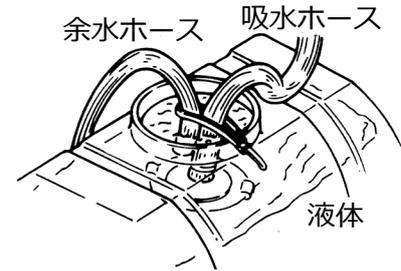
警告



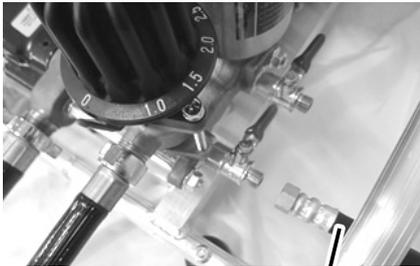
■ 余水ホースは確実に吸水ホースに束ねてください。

守らないとホースが暴れてタンク外に水を噴出し、事故やけがに至るおそれがあります。

- ④ 余水ホースは、タンクから飛び出さないように、付属のバンドで吸水ホースに固定し、タンク内に設置してください。



- ⑤ 動力噴霧機に噴霧ホースを接続してください。



噴霧ホース

お願い

- 本製品に噴霧ホースは付属されていません。36 ページの「11. 主要諸元」を参照し、製品仕様に対応した規格の純正部品をご購入の販売店にてご相談、お買い求めください。

(8) ノズルの接続

噴霧ホース先端のパッキンに異常がないことを確認し、ノズルを接続してください。



お願い

- 本製品にノズル、先コック、より戻し金具は付属されていません。36 ページの「11. 主要諸元」を参照し、製品仕様に対応した規格の純正部品をご購入の販売店にてご相談、お買い求めください。

3. 始業点検（作業前点検）

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

警告



- 始業点検一覧表に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。

注意



- 始業点検は必ずエンジンを停止して行ってください。
点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

始業点検一覧表

点検項目	点検内容	処置	参照先
エンジン	燃料タンクのガソリンに不足はないか	給油（赤リングまで）	11 ページの「(5) エンジンの準備」
	エンジンオイルに過不足・汚れはないか	給油・交換	
	燃料漏れ・油漏れはないか	修理	
	エアクリーナに汚れはないか	清掃	
	リコイルカバー周辺にゴミなどはないか	清掃	
	マフラカバー周辺にゴミなどはないか	清掃	
動力噴霧機	オイルの不足・汚れはないか	給油・交換	31 ページの「(1) 動力噴霧機の整備」
	動力噴霧機およびその付近に油漏れはないか	修理	
吸水ホース 吸水ストレーナ	吸水ストレーナにゴミはついていないか	清掃	32 ページの「(5) 吸水ストレーナの清掃」
	ホースに汚れ、割れ、つぶれ、傷はないか	修理・交換	32 ページの「(3) ホースの点検」
	ホース接続金具のパッキンは正常か	修理・交換	
噴霧ホース 余水ホース	ホースに汚れ、割れ、つぶれ、傷はないか	修理・交換	32 ページの「(3) ホースの点検」
	ホース接続金具のパッキンは正常か	修理・交換	
ノズル	摩耗・つまりはないか	清掃・交換	
全体	ボルト、ナット類のゆるみ	増し締め	
	水漏れ・油漏れ跡はないか	修理	
	各部に汚れはないか	清掃	

※エンジンについて詳しくはエンジンの取扱説明書をお読みください。

4. 運転の仕方

(1) 始動の前に

 危険	
	<ul style="list-style-type: none">■ 本製品は防じん、防爆仕様ではありません。腐食性ガス、可燃性ガス、引火性ガスがある場所、粉じんの多い場所での使用はしないでください。 発火、火災などの原因となります。最悪の場合、爆発に至ります。■ 海水の飛沫がかかるような場所や塩分の多い環境下で使用しないでください。 部品の錆・接触不良・絶縁不良・劣化などにより漏電・感電・ショート・発熱・発火・故障に至ります。■ ほこりやゴミが付いたまま使用しないでください。必ず取り除いてから使用してください。 ゴミが付いたまま使用すると発熱・発火に至ります。ほこりの少ない屋内に保管してください。

 注意	
	<ul style="list-style-type: none">■ 不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。 整備不良のまま作業を続けると、けがや本製品の損傷に至るおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">■ 無理な体勢での作業はしないでください。 思わぬけがに至るおそれがあります。

(2) 給水

タンクに必要な量の水を入れてください。

 警告	
	<ul style="list-style-type: none">■ 飲料水源および生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。 飲料水源を汚染すると法律により、罰せられることがあります。

 注意	
	<ul style="list-style-type: none">■ 泥や砂等が混入している水、温度が 40℃を超える水は使用しないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。

(3) 始動

⚠ 危険



下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や事故に至ります。

- 本製品から離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。
- 排気ガスは高温です。排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。また、排気ガスが肌や衣類に触れないようにしてください

⚠ 警告



- エンジンを始動する前に、周囲を良く見渡し本製品の近くに人、特に小さな子供やペットがいないことを確認してください。

本製品が急に動き出し、人身事故や傷害事故に至るおそれがあります。

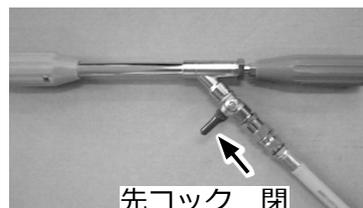
⚠ 注意



- 本製品の通気を妨げるような場所で、運転しないでください。

エンジンの吸気や排気を妨げると、本製品が故障に至るおそれがあります。

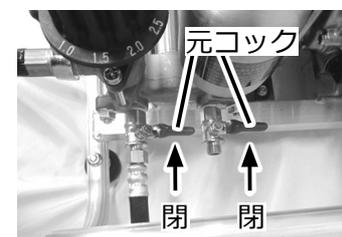
- ① ノズルから薬液が噴霧しないように、先コックを閉じる、ノズルニギリを閉じるなど、ご使用のノズルを締め切ってください。



- ② 圧力調整ニギリを回して「0」位置にしてください。



- ③ 元コック(2箇所)を閉じてください。

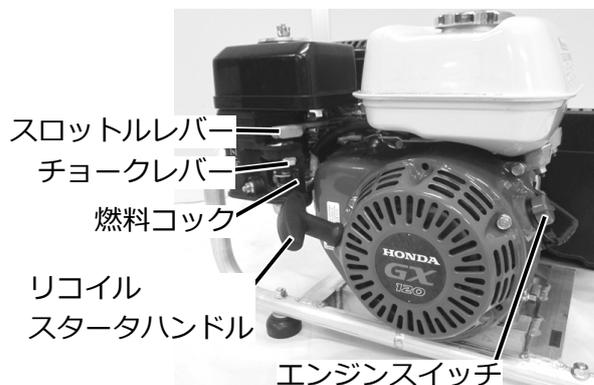


④ エンジンの燃料コックを開いてください。

⑤ エンジンスイッチを「ON」にしてください。

⑥ スロットルレバーを「半開」にしてください。

⑦ チョークレバーを「全閉」の位置にしてください。但し、エンジンが暖まっている時はチョークレバーを「開」の位置にしてください。



⚠ 注意



- リコイルスタータハンドルを引いた後は、リコイルスタータハンドルから手を離さずに戻してください。
リコイルスタータハンドルを引いてすぐに手を離すと、身体に当たって怪我をしたり、リコイル装置や周りの部品の故障に至るおそれがあります。

お願い

- リコイルスタータハンドルは、勢い良く引いてゆっくり戻してください。

⑧ リコイルスタータハンドルを握り、圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢いよく引っ張ってエンジンを始動してください。

※ リコイルスタータハンドルを2～3回引いても始動しない場合は、チョークレバーを「開」にしてから、再度行ってください。詳しくは、エンジンの取扱説明書を参照してください。

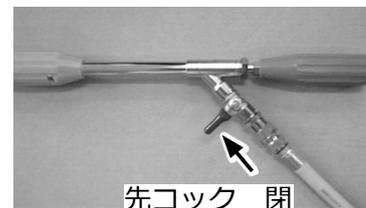
⑨ エンジン始動後、動力噴霧機も始動し、吸水を始めますので、余水ホースから勢いよく水が出るのを確認してください。

⑩ エンジンの調子を見ながら、チョークレバーを徐々に「開」の方に移動させ、最後は全開にしてください。

⑪ エンジンが温まっていない場合は、スロットルレバーを「低速」にして3～5分間ほど暖気運転してください。

(4) 停止

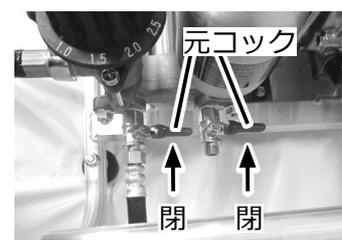
① ノズルから薬液が噴霧しないように、先コックを閉じる、ノズルニギリを閉じるなど、ご使用のノズルを締め切ってください。



② 圧力調整ニギリを回し「0」の位置にしてください。



④ 元コックを閉じてください。



⑤ スロットルレバーを「低速」にしてください。
※ 高速運転後は2～3分程度、冷却運転をしてください。

⑥ エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
※ エンジンが停止します。

⑦ 燃料コックを閉じてください。



⚠ 注意



- 本製品のエンジンが停止直後の場合は、マフラーやマフラーカバー、エンジン本体は熱くなっています。高温部分には触らないでください。
高温部への接触により、火傷に至るおそれがあります。

(5) 緊急停止

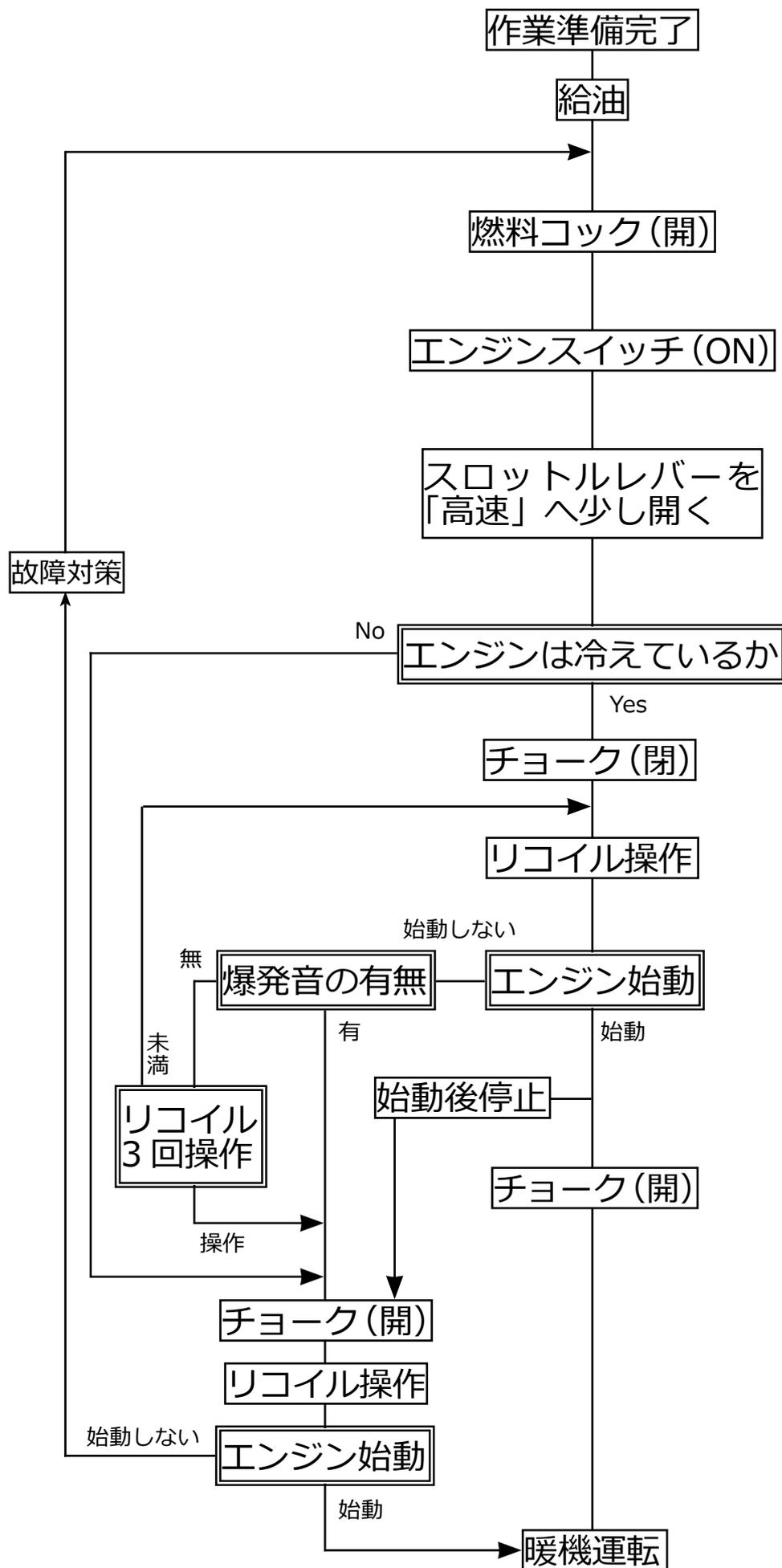
緊急にエンジンを停止する時は、エンジンスイッチを「OFF」にして、即座にエンジンを停止してください。エンジンスイッチの故障で、ボタンを操作してもエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョークレバーを（閉）側の位置にしてください。エンジンは失速停止します。その後直ちにご購入の販売店にエンジンスイッチの修理を依頼してください。

※ 冷却運転を行わずに、エンジンを停止するとバックファイアにより、破裂音がすることがあります。

お願い

- 緊急停止は機械に負担をかけ、寿命を縮めますので、緊急時以外には行わないでください。

(6) エンジンの始動フロー



5. 作業の準備

(1) 噴霧確認

作業前に清水で運転し、異常が無いかを確認してください。

① 17 ページの「(3) 始動」を参照し、本製品を始動します。

⚠ 注意



- 本製品の全体の振動に注意して、特に振動の大きくなる回転速度では使用しないでください。振動が大きい状態で本製品を使用し続けると、故障に至るおそれがあります。
- 動力噴霧機を 30 秒以上空運転しないでください。動力噴霧機が空運転になり、故障に至るおそれがあります。
- 本製品を操作するときは、エンジンのマフラーなどの高温部に触れないでください。触れると火傷に至るおそれがあります。

② エンジンのスロットルレバーを「高速」にしてください。

スロットルレバー



③ 圧力調整二ギリを回して、所要の圧力に設定します。

圧力調整二ギリ



- ④ ノズルが閉じている（噴霧しない状態になっている）ことを確認してから、ノズルを接続している元コックのみ開いてください。



- ⑤ ノズルをしっかり握り、ノズル先を安全な方向に向けて噴霧をおこなってください。
- ⑥ ホースの接続部から、水漏れなどの異常がないか確認してください。
- ⑦ ノズルからポタ落ちなどの異常がないか、確認してください。
- ⑧ ノズルからの噴射を停止してください。
- ⑨ **19 ページの「(4)停止」を参照し、本製品を停止します。**

(2) 薬剤の準備

薬剤を薬剤タンクに入れるときは、給水した後に行ってください。

 警 告	
	<ul style="list-style-type: none">■ 薬剤は飲み物や食べ物の容器、ペットボトルなどには移し替えないでください。誤って飲み込むと薬害に至るおそれがあります。
	<p>下記の項目を必ず守ってください。 薬剤を誤って使用すると、薬害に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み、必ず記載されている内容を確認してください。■ 薬剤の知識を十分に持った人が薬剤を取り扱ってください。■ 人や動物がいる空間には散布しないでください。
	<ul style="list-style-type: none">■ 薬剤は余らないよう、散布計画を立ててから作成してください。 余った薬剤をみだりに廃棄すると、法令違反に至るおそれがあります。■ 薬剤を取り扱う際は、保護具（保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋など）を使用し、十分に注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。また、かぶれなどを引き起こすおそれがあります。■ 薬剤の使用中に体に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、薬害に至るおそれがあります。■ 薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは容器が破損しないように気をつけてください。 薬剤が漏れ出すと薬害に至るおそれがあります。■ 薬剤は、幼児の手の届かないカギのかかる専用の場所に保管してください。 幼児が触ると、薬害に至るおそれがあります。

 注 意	
	<ul style="list-style-type: none">■ 使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。 濃度や散布量、薬剤の種類を間違えると、作物が薬害に至るおそれがあります。また本製品の消耗を早めます。■ 薬剤、水はゴミが混じらないように、必ずストレーナを通して薬剤タンクに入れてください。 異物が入ると故障に至るおそれがあります。

お願い

- 農薬取締法に基づく「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」により、農薬使用者は下記を遵守する義務があります。
 - 1) 農作物や人畜などに害を及ぼさないようにする。
 - 2) 周辺水域への汚染のないようにする。
 - 3) 農薬ラベル記載事項(適用作物、希釈倍率、使用回数、収穫前日数)を遵守する。
 - 4) 住宅地などでの農薬の飛散を防止する。
 - 5) 使用した農薬の情報(年月日、場所、農作物、農薬の種類、単位面積当たりの使用量または希釈倍率)を記録する。
- ※ 詳細については農林水産省ホームページの「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」を参照してください。
- 散布計画を立て、薬剤は余らないように作ってください。
- 有機溶剤を含む薬剤のご使用はお控えください。有機溶剤はパッキン、ホース類を傷めやすい薬剤です。やむを得ずご使用される場合は、使用後すぐに必ず清水で十分に洗浄してください。パッキン、ホース類が損傷します。
- 展着剤を使用する場合は、展着剤のラベルに記載されている内容に従って使用してください。
- フロアブル剤の中には、原液で使用すると、パッキン・シール部を痛め、液漏れにつながる場合があります。ご注意ください。

- ① 薬剤調合用に、バケツなどの容器を準備してください。
 - ② 防水性の保護手袋と保護マスクを装着してください。
 - ③ 容器で必要なだけ薬剤を調合してください。
- ※ 薬剤は余らないように作ってください。
水和剤を使用する際は、少量の水でよく溶いてください。
 - ④ 薬剤を外部に漏らさないように薬剤タンクに入れ、十分かくはんしてください。
 - ※ 動力噴霧機を回しておくと、余水でかくはんすることができます。

6. 散布作業

(1) 散布作業

散布作業をするときは、下記の注意事項を守ってください。

警告

	<ul style="list-style-type: none">■ ノズルをのぞき込まないでください。 目や顔などに薬剤がかかり、薬害に至るおそれがあります。■ 薬剤を散布した直後の場所へ入らないでください。 散布後の薬剤の蒸気を吸い込み、薬害に至るおそれがあります。■ 作業中の喫煙・飲食はしないでください。 タバコや手についた薬剤が口から入り、薬害に至るおそれがあります。■ 作業に関係のない人は、散布作業の現場に近づけないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。■ 人や動物に噴霧しないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。■ 人や動物にノズルを向けしないでください。 噴射停止であっても、残圧を抜かないと噴霧ホース内には高圧状態で水が封入されている為、不意の操作で高圧水を噴射し、けがや薬害に至るおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">■ 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。■ 頭痛やめまいを感じたり、気分が悪くなったときは、すぐに作業を中止して医師の診察を受けてください。 薬害により事故や重傷に至るおそれがあります。■ 薬剤はタンクに残らないように散布してください。 残ったままで保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって、薬害に至るおそれがあります。■ 散布作業は朝夕の涼しい時間帯に行ってください。 気温の高い時間帯は散布後の薬剤の蒸気を吸いこみ、薬害に至るおそれがあります。■ 風向きを考慮して、周辺の他の作物や畜舎、養魚池、水源地、河川、湖沼、住宅、通行人に飛散させないように散布してください。 薬剤の飛散により、薬害に至るおそれがあります。■ 風上から風下に向かって作業してください。 風下から作業すると作業者が薬剤を浴びて、薬害に至るおそれがあります。

注意

	<ul style="list-style-type: none">■ 噴流の中に手足を入れないでください。 高圧水に触れるとけがに至るおそれがあります。■ 本製品を倒したり、ぶついたりしないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。■ ホースを継いで使用しないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">■ 不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。 整備不良のまま作業を続けると薬害やけが、本製品の損傷に至るおそれがあります。■ タンクの残量に注意し、ノズルから霧が出なくなったら、動力噴霧機を停止させてください。 動力噴霧機を 30 秒以上空運転すると、故障に至るおそれがあります。

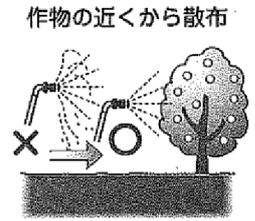
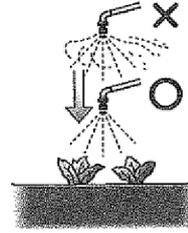
⚠ 注意

下記の項目を必ず守って、散布作業をしてください。

誤った散布作業を行うと薬剤がドリフトし、周辺作物や周辺住民などが薬害に至るおそれがあります。



- 風の弱い時に散布してください。
- 散布の位置や方向に注意してください。
- 適正なノズルを使い、適正な圧力で散布してください。
- 適正な量を散布してください。
- 園地の端部での散布作業は特に注意してください。
- 散布しようとする作物以外に、農薬がドリフトしないように細心の注意を払って散布してください。



お知らせ

- 一時間以上連続運転をすると、空気室内の空気がなくなり、ホースが激しく振れることがあります。そのときは、圧力調整二ギリを「0」位置にし、吸水ストレーナを空中に出して、10秒程度空気を吸わせてください。その後、吸水を確認してから作業を再開してください。

お願い

- 作業中は異常音、液漏れなどに注意し、もし異常があった場合は運転を中止し、対処してください。

- ① 17 ページの「(3) 始動」を参照し、本製品を始動します。
- ② 21 ページの「(1) 噴霧確認」②～⑤項の要領でエンジン回転数、噴霧圧力の調整を行い、元コックを開きます。
- ③ ノズルをしっかり握り、ノズル先を対象物に向けた状態で噴霧作業を行ってください。

(2) 散布作業後

危険



- **本製品は防水構造ではありません。エンジンと動力噴霧機に水をかけないでください。**
感電やショートにより火災、事故、故障に至ります。
汚れた場合は布などで拭き取ってください。

警告



- **清掃作業は必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。**
動力噴霧機が動いていると薬剤が出て、薬害に至るおそれがあります。また、停止直後のエンジンは高温の為、やけどや事故に至るおそれがあります。
- **損傷個所がある場合は、修理してから保管してください。**
損傷個所があると、事故に至るおそれがあります。
- **作業が終わったら、全身をよく洗ってください。目をきれいな水で洗い、うがいをしてください。**
身体に薬剤が付着していると、薬害に至るおそれがあります。
- **作業後は使用した保護具を十分に清掃してください。**
保護具に薬剤が付いていると、次の作業時に薬害に至るおそれがあります。
- **作業に使用した作業衣は、他の洗濯物に薬剤が付かないよう分けて洗濯してください。**
一緒に洗濯してしまうと、薬剤がほかの洗濯物に付き、薬害に至るおそれがあります。
- **本製品の内部に付着した薬剤は洗い流してください。**
薬剤が残った状態や付着した状態で保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって薬害に至るおそれがあります。また、動力噴霧機、ホース、ノズルが損傷に至るおそれがあります。

注意



- **散布作業終了後は、動力噴霧機の内部をきれいな水で必ず洗浄してください。**
動力噴霧機内部に薬剤が残っていると、故障に至るおそれがあります。
- **付着した薬剤はきれいに取り去ってください。**
薬剤が付着していると、サビの発生や故障に至るおそれがあります。

1) 洗浄

- ① タンクに清水を入れて運転、ノズルより噴霧し、各ホース、ノズル、動力噴霧機内の洗浄をします。
※ 21 ページの「(1) 噴霧確認」を参照してください。
- ② ノズルから薬液が噴霧しなくなっても、内部洗浄の為、清水噴霧を 2 ～ 3 分続けてください。
- ③ 運転を停止します。
※ 19 ページの「(4) 停止」を参照してください。

2) 水抜き

- ① タンクから余水ホース、吸水ホース、吸水ストレーナを引き上げてください。
 - ② 水抜き運転を行います。ノズル、各ホースから水がでなくなるまで運転してください。
- ※ 21 ページの「(1) 噴霧確認」を参照してください。
- ③ 噴霧しなくなったら、直ちに運転を停止します。
- ※ 19 ページの「(4) 停止」を参照してください。

 注 意	
	<ul style="list-style-type: none">■ 清掃後は本製品やホースの内部に水分を残さないように、水抜きを必ず行ってください。凍結による動力噴霧機の故障、湿気によるエンジンの故障に至るおそれがあります。■ 本製品は室内で保管してください。凍結により動力噴霧機が故障に至るおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none">■ 水抜き運転は 30 秒以上行わないでください。動力噴霧機が空運転になり、故障に至るおそれがあります。

3) 取り外し・格納

- ① ノズル、吸水ホース、吸水ストレーナ、余水ホースを取り外し、水を取除きます。
- ② 接続部にゴミや砂が入らない様に注意して格納してください。
- ③ 凍結防止の為、元コックは開いたままにしてください。

お願い

- ホースを接続したままにするとパッキンを傷め、不具合の原因となりますので必ず作業後には取り外してください。

4) 作業終了後

- ① 薬剤を保管庫に戻し、鍵をかけて保管してください。また、農薬使用日誌をつけてください。
- ② 保護具や使用した容器を洗浄してください。
- ③ 衣類を脱ぎ、全身を洗ってください。

7. 点検・整備

お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に1回、ご購入の販売店にて点検を行ってください。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。
- 本製品を運転して行う点検整備は、必ずご購入の販売店に依頼してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。

⚠ 警告

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本製品を運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。 機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点検・整備・オイル交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジン、ポンプ、オイルが冷えてから行ってください。 冷える前に行うと、火傷に至るおそれがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。 正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。 ■ 点検、整備などで外したカバーは、全て正しく取り付けてください。 正しく取り付いていないと、巻き込まれたりして事故に至るおそれがあります。

(1) 定期点検

下記の使用時間を目安に定期的に点検を実施してください。

お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

点検項目		使用時間	(毎日) 8 時間	100 時間	300 時間	参照タイトル
動力噴霧機	動力噴霧機のオイル点検・補給		○			31 ページの「1」動力噴霧機の整備
	動力噴霧機のオイル交換			○ (初回 50 時間で交換)		
	シリンダ元注油口への注油			○ (または1年ごと)		
	動力噴霧機の分解・点検				※○	
	調圧弁の分解・点検				※○	
	吸水ストレーナの清掃・点検	毎給水時				※○
Vベルトの張り具合や傷の点検				※○ (初回 25 時間で点検)		
ホースの傷や割れの点検			○			32 ページの「3」ホースの点検
水漏れ・油漏れの点検			○			
ノズルの詰まり・摩耗の点検			○			
各部の清掃および締め付け点検			○			

- エンジンに関する内容は、エンジンの取扱説明書に従ってください。

※印はご購入の販売店に依頼してください。

■ 消耗部品リスト

使用箇所	部品名称	部品番号	製品名称	
			GS204E-H	GS304E-H
注油口フタ	Oリング	014177		○
キャップ	キャップ	117420	○	
クランクケース	フェルトパッキン	130515	○	○
クランクケースフタ	Oリング	014041	○	
		048773		○
オイルドレンプラグ	Oリング	023170	○	○
オイルシールケース	Oリング	026536		○
シリンダ元金具	シールパッキン	100015	○	○
パイプ受け金具	Oリング	015862	○	○
		023172	○	○
シリンダパイプ	シリンダパイプ	022929	○	○
シリンダパイプ内	吸水弁	124277	○	
		014122		○
	ピストンパッキンマトメ	116121	○	
	ピストンパッキンセット	632586		○
	吸水弁カラー	027499		○
	吸水弁ストッパ	118628	○	
		119917		○
	ナイロンナット	046365		○
シリンダ先金具	弁組立	120276	○	○
調圧弁	調圧弁ベローパッキン	016972	○	○
	調圧弁ベローズ	011451	○	○
	調圧弁弁棒	016975	○	○
	調圧弁ベンサック	012256	○	○
	調圧弁弁玉	107238	○	○
	調圧弁弁座	117443	○	○
	Oリング	014179	○	○
Vベルト	Vベルト	108645	○	
		106384		○
吸水ホース	ゴムマルパッキン	103686	○	○
余水ホース	ゴムマルパッキン	103685	○	○

■ 給油量一覧表

給油項目	規格	GS204E-H	GS304E-H
エンジン燃料 (L)	自動車用無鉛 ガソリン	2.0	3.1
エンジンオイル (L)	ガソリンエンジン用 SE 級以上 SAE10W-30	0.56	0.58
動力噴霧機オイル (L)	ガソリンエンジン用 SH 級以上	0.42	0.6
動力噴霧機シリンダ元部	SAE10W-30	3 ~ 5 滴	

■ 交換時期一覧表

給油項目	使用油脂	初回交換時間	定期交換および注油
エンジンオイル	ガソリンエンジン用 SE 級以上 SAE10W-30	同梱のエンジン取扱説明書を参照ください。	
動力噴霧機オイル	ガソリンエンジン用 SH 級以上 SAE10W-30	50 時間	100 時間
動力噴霧機シリンダ元部		—	100 時間または 1 年ごと(※)

※ どちらかで注油してください。

(2) 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

お願い

- エンジンに関しては、エンジンの取扱説明書をよく読んで整備してください。

1) 動力噴霧機の整備

動力噴霧機のオイル交換は、下記手順に従って行ってください。

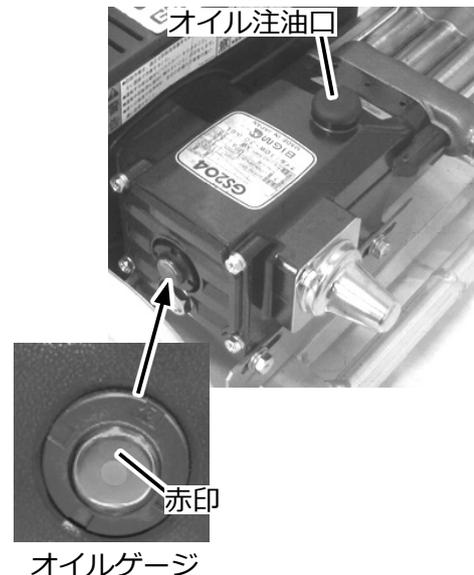
1. オイルの抜き方

- ① オイルを受ける容器を準備してください。
- ② オイルドレンプラグを外し、オイルを抜いてください
- ③ オイルを抜き終わったら、オールドレンプラグを取り付けてください。



2. オイル給油方法

- ① 動力噴霧機の注油口より、オイルを入れてください。
 - ② 油面がオイルゲージの中心の赤印に重なるように給油してください。
- ※ 給油するオイルの量は 31 ページの「■ 給油量一覧表」を参照してください。



3. シリンダ元注油口への注油方法

クランクケースのシリンダ取付部の3つ穴に、油差しでオイルを3～5滴注油してください。



お願い

- 100 時間ごとに、シリンダ取付部へ注油してください。
- ※ 100 時間に満たなくても、一年に一度は注油してください。

2) V ベルトの点検

緩み、亀裂、損傷がないか点検してください。

※ Vベルトの交換、張り調整は、ご購入の販売店に依頼してください。

3) ホースの点検

ホースに割れ、傷などが点検し、損傷があったら交換してください。

4) 動力噴霧機の点検

動力噴霧機からの水漏れ、ヒビ、割れなどの損傷があったら対象部品を交換してください。

5) 吸水ストレーナの清掃

吸水ストレーナ表面のゴミを清掃し、清水で洗い流してください。

⚠ 注意



- 吸水ストレーナは作業前に毎回清掃してください。
詰まると水量、圧力が低下するおそれがあります。

8. 長期保管

■ 本製品を長期間(1カ月以上)保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**29 ページの「7. 点検・整備」**を行ってから保管してください。なお、保守点検ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は、全て当社指定の純正部品を使用して、必ず修理してから保管してください。

危険



■ **燃料を抜いた状態で、本製品を保管してください。**

燃料を入れたままですと、火災の原因となります。長期保管時は本製品から燃料を抜き取り、専用の容器で保存してください。

注意



■ **本製品やホースの内部に水分を残さないように、水抜きを必ず行ってください。**

凍結や湿気による故障に至るおそれがあります。

■ **本製品は室内で保管してください。**

凍結により故障に至るおそれがあります。

■ **シート等をかける場合は本製品が乾いてから行ってください。**

濡れたままシート等をかけると腐食の原因となります。

お願い

■ 保管は湿気の少ない場所でチリやゴミが付着しないようにしてください。

- ① 凍結破損防止のために **27 ページの「(2) 散布作業後」**の要領で、洗浄運転と水抜きを行ってください。
- ② ノズル、ホースを取り外し、水を取り除きます。
- ③ 各部のボルトやナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば増し締めしてください。
- ④ エンジンの燃料タンクのガソリンを抜いてください。
- ⑤ キャブレターの燃料を抜いてください。
- ⑥ リコイルスターターハンドルを引いて、重く手応えのある所(圧縮位置)で止めてください。
- ⑦ 塗装のはがれた部分は、サンドペーパーなどで錆を落とし、塗料を塗ってください。
- ⑧ 機械外部を清掃し、オイルのしみた布できれいにみがいて錆止めをしてください。
- ⑨ 箱等に入れ、湿気の少ない風通しのよい場所に保管してください。

9. 故障と対策

☆印については、ご購入の販売店に調整・修理を依頼してください。

お願い

- エンジンについては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

(1) 吸水しないとき

故障内容	故障原因	対策	
吸水しない	吸水ホース接続緩み	修正	
	吸水ホース、吸水ストレーナの詰まり	掃除、又は交換	
	薬剤タンクに水がない	水を入れる	
	吸水ストレーナが水中にない	吸水ストレーナを水中に沈める	
	調圧調整二ギリが圧力をかけたままの状態	調圧調整二ギリを 0 位置にする	
	動力噴霧機内部品の摩耗、キズ	交換	☆
	動力噴霧機内に異物	分解清掃	☆
	Vベルトのスリップ	調整・交換	☆

(2) 圧力が上がらないとき

故障内容	故障原因	対策	
吸水するが 圧力が上がらない	ノズル穴の摩耗	交換	
	純正以外のノズルを使用している	純正ノズルを使用する	
	調圧弁ハンドル内部品の摩耗	交換	☆
	動力噴霧機内部品の摩耗、キズ	交換	☆
	動力噴霧機内に異物	分解清掃	☆

(3) その他の異常のとき

故障内容	故障原因	対策	
本体、配管からの水漏れ	本体（動力噴霧機部）からの水漏れ	修理または交換	☆
	配管からの水漏れ	修正	

お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

10. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲渡者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください(保証期間内の場合)。

廃棄

- お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

お願い

- 燃料やオイルを廃棄する場合は、お住いの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

11. 主要諸元

型 式 名		GS204E-H	GS304E-H
製品 寸法	全 長 (mm)	540	540
	全 幅 (mm)	550	550
	全 高 (mm)	370	390
乾 燥 質 量 (kg)		28.9	31.2
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ GX120	ホンダ GX160
	定 格 出 力 (kW/min ⁻¹)	2.1/3600	2.9/3600
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	2.0	3.1
	潤 滑 油 容 量 (L)	0.56	0.58
	始 動 方 式	リコイル式	
動 力 噴 霧 機	名 称	GS204(EA)	GS304(EHA)
	圧 力 (M P a)	4.0	
	吸 水 量 (L / m i n)	20	31
	最 高 回 転 速 度 (m i n ⁻¹)	750	1050
	吸 水 口	G3/4	
	余 水 口	G1/2	
	噴 霧 口	G1/4 × 2	
	潤 滑 油 容 量 (L)	0.42	0.6

■ 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

サービスと保証について

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■ アフターサービスについて

○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名 _____
- 製造番号 _____
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
末永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。

詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

丸山サポートセンターホームページ

<http://www.maruyama.co.jp/support/>



受付時間 9:00 ~ 17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、
ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



株式会社丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 〒101-0047

この取扱説明書の部品番号は 835401

P/N. 835401-02 23.12